

【p 96～p 99】 甘地の獅子舞

1 資料活用にあたって

- 裕樹さんたちの努力に焦点をあてれば内容項目はA（5）であるが、本資料は裕樹さんたちを支えた「郷土の伝統文化を受け継ごう」という気持ちに焦点をあてて内容項目はC（17）で扱う。
- 内容項目のC（17）では、郷土の伝統文化について、先人の努力を知り、自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し、そのために努めようとする心構えを育てることが大切である。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ぼく（子どもが「ぼく」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：裕樹さんと真也さんの早がわりの練習に打ち込む姿と二人の話
- 変化するところは：「ぼくは、ただじっと見ているだけだった。」
- ぼくが二人のお兄さんと一体化するプロセスで追うと主人公の心をとらえやすい。

・裕樹さんと真也さんから伝統を守る決意を聞き、何度も練習する二人の姿を見て、ぼくはみんなが帰ってもじっと見るようになる。

・祭りの日には、ぐっと手に力入れ、足にも力が入って、心臓がバクバクする。そして、技が成功するとみんなが拍手をしているのに、ぼくはガッツポーズをする。

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 伝統芸能一覧（市川町HP内）
<https://www.town.ichikawa.lg.jp/info/304>
- 甘地の獅子舞について
 - ・ 神崎郡市川町甘地（あまじ）の八幡神社と奥の大歳神社の祭礼に奉納される約四百年の歴史がある獅子舞。
 - ・ 1969年（昭和44年）兵庫県重要無形民俗文化財に指定。
 - ・ 祭日は八幡神社では9月の第1日曜日か第2日曜日、大歳神社では体育の日前日の日曜日となっている。
 - ・ 甘地の獅子舞の特色は、全ての曲に「ばやし子」が獅子をはやすことである。
 - ・ 獅子方（獅子の中に入る）は、「ばやし子」を経験した中学生以上の青年になる。
 - ・ 戦後、後継者不足で途切れがちになり、1986年（昭和61年）に地元保存会が結成された。
 - ・ 技の難易度が高い「早替わり」は途絶えたままだったが、その技を知る人が高齢になり、このままだと「早替わり」が消滅してしまう危機感から、技を知る人をお願いして技を継承することになり、2004年（平成16年）、30年ぶりに披露された。
 - ・ 技の継承は、すべて耳で聞き目で見て行われる。技を知る者がアドバイスをしながら進められる。年配の方が吹く笛も楽譜はない。使われる道具も全て手作りである。

4 展開の具体例

甘地の獅子舞

- ・主 題 名 ・地域の伝統文化を受け継ぐ C (17)
- ・資料の概要 ・ある日、獅子舞の「早がわり」に取り組む二人のお兄さんを見たぼくは、二人の取り組む姿に圧倒される。お兄さん達から、懸命な練習を支えるのは「技を受け継ごう」という気持ちであることを知ったぼくは、二人の練習を真剣に見守るようになる。そして、祭りの当日、技を成功させた二人を見つめるぼくは、技を受け継いでいくことを誓う。
- ・ね ら い ・裕樹さんと真也さんの早がわりの練習に打ち込む姿をみて道徳的に変化するぼくを通して、郷土の伝統文化を継承発展させていこうとする道徳的实践意欲を育てる。
- ・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・学習する道徳的価値に興味を持つ。	みなさんの住む地域には、昔から大切に受け継がれてきているものはありますか。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。	
	・一生懸命練習する理由を尋ねる主人公の気持ちを考える。	ぼくはどう思って「なんで裕樹さんは、そんなに一生けん命やってるん。」と尋ねたのでしょうか。 ・肩の上に立つなんてあぶないのに…。 ・こんなに一生懸命やって、しんどいだろうに…。 ・やっていてそんなにおもしろいのかな。
	・練習をただじっと見る主人公の気持ちを考える。	みんなが帰った後も、ただじっと練習を見ていた主人公は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ぼくにもお兄さんたちの気持ちがわかるよ。 ・お兄さんたち、がんばってよ。
	・技を大成功させたお兄さん達を見たぼくの気持ちを考える。	裕樹さんたちの技が成功した時、ぼくはどうしてガッツポーズをしていたのでしょうか。 ・自分のことのようにどきどきしながら見ていたから。 ・これまでのお兄さんたちの努力をしているから。
終 末	・舞いを終えたお兄さん達を見ている主人公の気持ちを考える。	舞いを終えたお兄さん達を見ながら、ぼくは心の中で何とつぶやいたのでしょうか。 ・ぼくもきっとお兄さんたちのように舞えるようになるぞ。 ・ぼくもきっと獅子舞の技を受け継いでいくぞ。 ・ぼくもきっとこの地域の伝統を受け継ぐぞ。
	・自分の考えを書く。	考えたことを道徳ノートに書きましょう。

主人公は、ただ技の凄さに感心を寄せているだけで、お兄さんたちの気持ちはわかっていないことをおさえる。

お兄さんたちの話と二人の練習姿がきっかけとなり、「地域の伝統文化を受け継ぐ」ことの大切さを主人公が考えはじめ、気持ちが少しずつお兄さんたちと一体化しはじめていることをおさえる。

主人公の心が、お兄さんたちと一体化していることをおさえる。

舞いを終えたお兄さん達を見ている主人公が、「ぼくも地域の伝統文化を継承していこう」という実践意欲を強めていることをおさえる。